

# 彙 報

## 彙 報 第 一

前会長 国 広 哲 弥

### 昭和 63 ～ 65 年度、各種役員の選挙結果について

昭和63～65年度の各種役員の選挙を、会則・選挙規則および選挙細則に基づいて、次の日程で行なった。

投票締切 1988年2月10日（消印有効）

開 票 1988年2月18日

その結果は、『言語研究』前号（第93号）に掲載の通りである。

なお、その後、中部地区委員に選出された浅井 享氏が辞退されたが、辞退者の欠員は補充しないため、中部地区委員は32名、委員総数は67名となった。

### 昭和 62 年度会計報告

昭和62年度の決算は別表1の通り確定し、4月22日に会計監査を受け、監査委員、奥津敬一郎・松本克己両氏の承認を得た。

〔別表 1〕 昭和 62 年度 日本言語学会決算

自 昭和 62 年 4 月 至 昭和 63 年 3 月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	7,025,009	1 刊 行 費	4,341,648
C 雑 誌 売 上	1,032,600	2 編 集 費	400,000
D 文 部 省 補 助 金	610,000	3 学 会 事 務 セ ン タ ー 委 託 費	2,546,819
E 預 金 利 息	12,324	4 大 会 関 係 費	1,081,522
F 雑 収 入	101,500	5 委 員 会 費	132,500
		6 常 任 委 員 会 費	53,430
		7 九 学 会 連 合 会 費	80,000
		8 C I P L 負 担 金	50,200
		9 選 挙 関 係 費	518,925
		10 通 信 費	188,690
		11 事 務 費	385,846
		12 設 備 費	0
		13 事 務 局 職 員 謝 金	584,000
		14 名 簿 作 成 費	938,320
		15 雑 費	0
収 入 合 計	8,781,433	支 出 合 計	11,301,900
A 前 期 繰 越	4,523,404	次 期 繰 越	2,002,937
計	13,304,837	計	13,304,837

## 彙 報 第 二

会 長 小 泉 保

## 昭和 63 年度第 1 回常任委員会

日 時：4 月 24 日（日）午後 2 時～4 時 30 分

場 所：三省堂大阪支社

出席者：小泉 保（会長），筧 壽雄，影山太郎，崎山 理，佐藤昭裕，清水克正，寺村秀夫，藪 司郎（以上，常任委員），松本克己（常任委員，60～62 年度会計監査委員），近藤達夫（常任委員，事務局長），下宮忠雄（編集委員長）。

議事ならびに報告：

- （1） 昭和 62 年度決算報告。
- （2） 昭和 63 年度予算案決定。
- （3） 第 96 回大会について（研究発表者の選定，プログラムの決定）。
- （4） 選挙管理委員の選出方法について。
- （5） 日本言語学会設立 50 周年・100 回大会等記念事業について。基本方針と，本年度秋季（第 97 回）大会を学会設立 50 周年記念大会とすることについて常任委員会案を決定。今後の進め方としては，顧問の先生方の意見を聞き，大会開催予定校とも接衝して，その結果を添えて委員会に諮ることとした。
- （6） 入会手続の一部簡略化について。

## 昭和 63 年度第 1 回委員会

日 時：6 月 4 日（土）

場 所：学習院大学 創立百周年記念会館 3 階 第 1・第 2 会議室

出席者：小泉 保（会長），池上二良，井出祥子，上野善道，大津由紀雄，大

東百合子, 荻野綱男, 笥 壽雄, 影山太郎, 菊地康人, 国広哲弥, 近藤達夫, 崎山 理, 佐藤昭裕, 柴谷方良, 清水克正, 下宮忠雄, 庄垣内正弘, 杉藤美代子, 竹内和夫, 田中克彦, 柘植洋一, 土田 滋, 角田太作, 徳川宗賢, 野元菊雄, 林 栄一, 早田輝洋, 平山輝男, 松本克己, 村木正武, 村山七郎, 藪 司郎, 吉田和彦 (以上 34 名)。

委任状 : 25名。

オブザーバー : 奥津敬一郎 (60~62 年度会計監査委員)

議事ならびに報告 :

- (1) 第 1 回常任委員会の報告があった。
- (2) 昭和 62 年度決算報告が承認された (別表 1 参照)。
- (3) 昭和 63~65 年度選挙管理委員を選出した。これに先立ち, 選挙規則にある会長の在住地区は, 小泉 保会長の場合, 中部地区であるが, 運用上, 所属機関 (大阪外国語大学) のある近畿地区とすることが承認された。選出された選挙管理委員は次の通り。

影山太郎, 近藤達夫, 崎山 理, 佐藤昭裕, 柴谷方良, 庄垣内正弘, 杉藤美代子, 徳川宗賢, 次点者 (次の順に) : 林 栄一, 堀井令以知。

- (4) 日本言語学会設立 50 周年・100 回大会等記念事業について。会長より, 50 周年に最も重きをおき, 他はその都度趣向をこらすことにするとの基本方針の下, 本年の秋の大会を 50 周年記念大会とし,
  1. 記念講演 (服部四郎先生にお願いする) をプログラムに組み入れる (『言語研究』95 号にも掲載する)。
  2. 『言語研究』別冊 (顧問及び長老の先生方による学術的エッセイ, 学会史 50 年資料を中心とする) を発行する。内容については, 編集委員会と事務局で詰める。
  3. 記念パーティー (通常の会員懇親会をいくらかより盛大にしたもの) をおこなう。

との案が提示され, 審議の結果, 承認された。

- (5) 昭和 63 年度秋季 (97 回) 大会 (日本言語学会設立 50 周年記念大会)

## [別表2] 昭和63年度 日本言語学会予算

自 昭和63年4月 至 昭和64年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	6,770,000	1 刊 行 費	4,500,000
C 雑 誌 売 上	1,000,000	2 編 集 費	400,000
D 文 部 省 補 助 金	540,000	3 学 会 事 務 セ ン タ ー 委 託 費	1,600,000
E 預 金 利 息	10,000	4 大 会 関 係 費	900,000
F 雑 収 入	0	5 委 員 会 費	150,000
		6 常 任 委 員 会 費	200,000
		7 九 学 会 連 合 会 費	80,000
		8 C I P L 負 担 金	60,000
		9 選 挙 関 係 費	0
		10 通 信 費	200,000
		11 事 務 費	500,000
		12 設 備 費	0
		13 事 務 局 職 員 謝 金	600,000
		14 記 念 事 業 費	1,000,000
収 入 合 計	8,320,000	15 予 備 費	130,000
A 前 期 繰 越	2,002,937	16 雑 費	2,937
計	10,322,937	計	10,322,937

(於、神戸市外国語大学)の日程が10月22日(土)、23日(日)に決定され、西 義郎氏を大会運営委員長とすることが報告された。

- (6) 九学会連合会理事 徳川宗賢氏より、連合会の現状について、日本民族学会から、連合会の研究体制、とくに学際的協力のあり方など基本的諸問題について再検討が要請されているとの報告があり、言語学会としては、代表理事に一任するかたちで、問題に対処していくことにした。
- (7) 従来、学会事務センターのみに置いていた学会入会のしおりと入会カードを、今後、事務局、会長校、大会会場等、適当な箇所に置いておき、入会希望者に随時配布することによって、学会入会の手続を、一部簡略化することとした。
- (8) 事務局職員として藤井三知代氏にかわって、入貝美恵子氏を採用したとの報告と、同氏の紹介があった。

#### 第96回大会

期 日 昭和63年6月4日(土)・5日(日)  
 会 場 学習院大学

#### 第1日(6月4日)

開会の辞 午後2時より  
 公開講演

「日本語の同系語」 大 野 晋  
 <会長就任講演>「空間と時間における直示の体系」  
 小 泉 保

会員懇親会 午後5時～7時

#### 第2日(6月5日)

研究発表 午前9時40分～12時30分

## ◦ A会場

- (A 1) 受動文と使役文の統語的派生について  
 ——変形文法の破綻と可変範疇句構造—— 田 原 薫
- (A 2) INFL とアマルガム 高 橋 孝 二
- (A 3) 時の副詞的名詞句に関する一考察 畠 永 英 夫
- (A 4) 閉鎖子音体系の類型論的考察 乾 秀 行
- (A 5) Grammaticization of Topic into Subject 柴 谷 方 良

## ◦ B会場

- (B 1) 日本語における単語アクセントと母音の無声化および母  
 音持続時間について 栗谷川 福 子
- (B 2) 失語症の音韻論における言語学的側面について 滝 浦 真 人
- (B 3) 複合語としての中国語の姓名 山 崎 直 樹
- (B 4) フィンランド語における主語・目的語について 佐久間 淳 一
- (B 5) モンゴル語の従属節の主語にあらわれる対格形について  
 水 野 正 規

会員総会 午後1時30分～2時

研究発表 午後2時～4時50分

## ◦ A会場

- (A 6) 日英語比較から見た日本人の認識表現の一特性  
 ——「含過程構造」の言語文化論的考察—— 氏 家 洋 子
- (A 7) 丁寧表現の習得についての日米比較研究 辻 子 美保子
- (A 8) 敬語意識と敬語 石 井 直 子
- (A 9) 日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照  
 荻 野 綱 男  
 金 東 俊  
 梅 田 博 之  
 羅 聖 淑  
 盧 顕 松  
 福 田 麻 子

◦ B会場

- (B6) Individuation の再解釈に基づくロシア語指示詞の研究  
 ——人称代名詞3人称形と指示代名詞の違いについて——

北 上 光 志

- (B7) ヒッタイト語の中動態語尾 *-ta (ti)* と *-uašta (ti)*

吉 田 和 彦

- (B8) 清朝前期の満漢合璧十二字頭からみた漢語の尖音団音

落 合 守 和

- (B9) チャガ語マチャメ方言の動詞アクセントについて 湯 川 恭 敏

閉会の辞

---

◇ 受贈図書リスト (昭和63年1月14日～7月31日)

アンヘリカの現代ケチュア語入門 (一)

(ラテンアメリカ資料センター 1988)

応用言語学

(白水社 1988)

外国文学研究 77-80

(立命館大学外国語科連絡協議会 1987-88)

計量国語学 16巻4, 5号

(計量国語学会 1988)

言語学論叢 第6, 7号

(筑波大学一般・応用言語学研究室 1988)

言語文化研究 XIV

(大阪大学言語文化部 1988)

現代京都方言のアクセント資料 (3) (中井幸比古著) (中井幸比古 1988)

国語学 150, 151, 152

(国語学会 1987-88)

国語学 研究と資料 第11号

(国語学研究と資料の会 1987)

- 国語国文 第24号 (立正大学国語国文学会 1988)  
 コピーと著作権 (著作権の集中的処理機構設立準備委員会 1988)  
 史苑 第47巻 第2号, 第48巻 第1号 (立教大学史学会 1988)  
 宗教研究 274 第61巻 第3輯 (日本宗教学会 1987)  
 人文社会科学論集 第1, 2号 (聖泉人文・社会学会 1987-88)  
 人文論叢 第13号 (東京工業大学 1987)  
 専修 語学ラボラトリー論集 第16号 (専修大学LL研究室 1987)  
 中国学導報 1, 2 (中国文化書院 1987)  
 調査報告集 9 (国立民族学博物館情報管理施設 1988)  
 朝鮮学報 第百二十五, 百二十六輯 (朝鮮学会 1987-88)  
 通信 第59, 60, 61号  
 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1987)  
 東京大学言語学論集 '87 (東京大学文学部言語学研究室 1987)  
 東方学 第74, 75輯 (東方学会 1987-1988)  
 東洋学文献類目 1985年度  
 (京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター 1988)  
 都大論究 第25号 (東京都立大学国語国文学会 1988)  
 名古屋学院大学外国語教育紀要 No. 16, 17, 18  
 (名古屋学院大学外国語教育研究センター 1987-88)  
 日本学術会議月報 第29巻 1月～7月号  
 (日本学術会議広報委員会 1988)  
 日本の学術研究動向 (日本学術会議第3常置委員会 1988)  
 日本語研究 第9号 (東京都立大学国語学研究室 1987)  
 日本語 表現の技法 (岡田纈装男著) (笠間書院 1987)  
 日本民俗学 170, 171, 173 (日本民俗学会 1987-88)  
 函館英文学 XXVII. (函館英語英文学会 1988)  
 比較文化雑誌 3 (東京工業大学比較文化研究会 1988)  
 比喩と理解 (山梨正明著) (東京大学出版会 1988)  
 文化項目分類 (国立民族学博物館 1988)

- 文学研究 第85輯 (九州大学文学部 1988)
- 法政大学文学部紀要 第33号 (法政大学文学部 1987)
- 北欧の言語 (エリ阿斯・ヴェセーン著 菅原邦城訳)  
(東海大学出版会 1988)
- 民族語文 5, 6 (1987), 2 (1988) (中国社会科学出版社 1987-88)
- みんぱく 1月～7月号 (国立民族学博物館 1988)
- みんぱく 1987 (国立民族学博物館 1988)
- 武蔵野文学 35 (武蔵野書院 1988)
- 山形女子短期大学紀要 第20集 (山形女子短期大学 1988)
- 山口国文 第11号 (山口大学人文学部国語国文学会 1988)
- 山口大学教養部紀要 人文科学篇 第21卷 (山口大学教養部 1987)
- 山口大学文学会志 第38卷 (山口大学文学会 1987)
- 論集 40, 41 (神戸大学教養部 1987-1988)
- Acta Asiatica 53, 54 (東方学会 1988)
- ArOr Vol. 55 4 (Academia Praha 1987)
- Вестник Ленинградского Университета 1, 2 (Ленинград 1988)
- Bulletin 1987 Annual Report No. 119  
(The Linguistic Society of America 1988)
- Bulletin de la Société de Linguistique de Paris Tome LXXXII  
Fascicule 1, 2 (Société de Linguistique de Paris 1987)
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies  
Vol. L Part 3 (University of London 1987)
- The Case for Lexicase (Stanley Starosta)  
(Pinter Publishers Ltd. 1988)
- Communication Internationale et Avenir des Langues et des  
Parlers en Europe (Presses D'Europe 1987)
- Die Cāturmâsya oder die altindischen Tertialopfer dargestellt  
nach den Vorschriften der Brâhmaṇas und der Śrautasūtras  
(Einoo, Sh.) (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1988)

- An English-Fulfulde Dictionary  
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1986)
- English-Linguistics Vol. 4 (日本英語学会 1987)
- JAAL Bulletin No.1-1986 No.2-1988  
(Japan Association of Applied Linguistics in JACET 1986,1988)
- Les Lamidats du Diamare et du Mayo-Louti au XIX<sup>e</sup> Siecle  
(Mohammadou, E.)  
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1988)
- Language Vol. 64 No. 1 (The Linguistic Society of America 1988)
- Lettera dall 'Italia 8  
(Istituto della Enciclopedia Italiana fondata da G. Treccani 1987)
- Lexicon No. 17 (岩崎研究会 1988)
- Lexikon der Rommanistischen Linguistik (Niemeyer 1987)
- Linguistic Research No. 6 (東京大学文学部英文学研究室 1988)
- 말소리 (Mal Sori) No. 11-14 (The Phonetic Society of Korea 1987)
- Max Niemeyer Verlag I (Max Niemeyer Verlag 1988)
- Naše řeč 1987-5, 1988-1, 2  
(Academia nakladatelství Československé akademie věd 1987-88)
- Perspectives on Topicalization: the Case of Japanese "wa"  
(eds. J. Hinds et al.) (John Benjamins Pub. Co. 1987)
- Русская Литература 1987-4, 1988-1 (Академия Наук СССР 1987-88)
- Русский Язык в Школе 1987-6, 1988-1, 2 (Просвещение 1987-88)
- Slovo a Slovesnost XLIX 1, 2  
(Československá Akademie Oriental Institute Čsav 1988)
- Sophia Linguistica 23/24  
(上智大学国際言語情報研究所 大学院言語学研究室 1988)
- Syntaxe comparative du français et de l'anglais (Jeanne  
Ambrose) (Scripta Humanistica 1987)

Traditions d'Origine des Peuples du Centre et de l'Ouest  
du Caméroun (Mohammadou, E.)

(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1986)

◇ 委員 下宮忠雄氏より, 次の二つの国際会議について, 会員の皆様にお知らせしてほしいとの依頼がありました。有用な情報であると判断し, 以下に掲載いたします。

1. **Societas Linguistica Europaea** (ヨーロッパ言語学会, 会員 1200 名) は毎年 8 月にヨーロッパ各地で Meeting を開催している。1989 年は Sofia (Prof. Duridanov), 1990 年は Bern (Prof. Richard Watts, Englisches Seminar), 1991 年は学会創立 25 周年を記念して, 創立者 Prof. W. Winter のいる Kiel が予定されている。この学会は入会金 DM 9.00, 年会費 DM 35.00, 問い合わせ先は Societas Linguistica Europaea, Olshausenstr. 40-60, D-2300 Kiel, West Germany.
2. **Internationales Verein der Germanisten (IVG, ドイツ語学・文学国際学会; 会長・岩崎英二郎)**: 1990 年 8 月 27 日 (月) ~ 9 月 1 日 (土), 東京三田の慶応義塾大学 (〒108 港区三田 2-15-45), 大会参加費は 1990 年 3 月 31 日までに申し込みの場合, 会員 10,000 円, 非会員は 25,000 円, 以後の申し込みは各 5,000 円増, 学生・研究生および出席者の同伴者は一律 5,000 円。主要題目:
  - 1) 異文化の理論的考察, 2) 言語接触の諸問題, 3) 二言語間の対照意味論, 辞書編集法, 語彙論, 4) 二言語間の対照統語論, 5) 二言語間の対照語用論, 6) 言語史の諸問題, など 24 項目。

- ◇ 昭和63年度春の叙勲において、本学会評議員の野村正良氏は、勲三等旭日中綬章を受章されました。本学会として、心からお祝い申し上げます。



- ◇ 本誌は、文部省昭和63年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を得て刊行されたものである。